



# 浅水ふれあいセンターだより

平成22年度17号

発行: 平成23年3月8日

発行責任者: センター長

☎ 0220-34-2008

## 16歳・初出場2位／フィギュアのルーツは浅水！

2月20日(日) フィギュアスケート四大陸選手権、男子は期待の新星、16歳の羽生結弦(ゆづる、宮城・東北高)が、エース高橋とワンツーフィニッシュと大活躍！

シニア転向1年目、初出場の大会で表彰台だ。これからの期待が大きい！！ところで、浅水新田区 羽生雅行先生のお宅が羽生結選手の祖父(故 羽生利衛・元米谷高校の先生・昭和7年生まれ)の生家であり、浅水がルーツのスーパースターとなりました。これからのフィギュアスケートで日本を代表して、世界の舞台での活躍が大いに期待されている、羽生結弦選手を、これからは意識して応援してみませんか？



## 防災ボランティア講習会開催！

3月3日(木) 登米市社会福祉協議会中田支所と浅水コミュニティ運営協議会の主催で『防災ボランティア講習会』が各行政区から44名が参加で開催されました。挨拶では、ニュージーランドの地震や宮崎・鹿児島県境の霧島山・新燃(しんもえ)岳の爆発的噴火等予想できない災害が発生していることから、それぞれの地域での自主防災への取り組みが必要なこと、又 災害発生時に対応できる様に、何回も訓練すること等のお話を頂きました。



・講習の部では、「災害時に対応できる地域づくり～防災・応急手当・要援護者支援等～」のテーマで実施されました。竹と毛布を使った搬出方法、ガーゼや手ぬぐいを使ったケガの応急処置・感染防止として100円ショップの雨かっぱ等を活用する方法・段ボールや新聞紙を活用した骨折の応急処置方法等の実訓練を致しました。万が一救急車を呼んだ場合は、保険証・かかりつけの病院・薬・そして今までの経過を伝えること。これにより、早い救命対応が出来ますとの救急隊員の説明もありました。

・講演の部では、「地域に根付く地域力」～平成21年10月8日の横山地区水害経験から～との演題で、津山町横山地区の区長 浅野茂美氏より、まさか山の上の地域なので水害にあうとは思っていなかった、95歳の人でも初めての体験となった。24時間で273mmの雨量、13時の時点で1時間に58mmの雨量を記録した、体験を話して頂きました。道路は川のように流れ、側溝に木の根が引っ掛かって水が溜まって、自転車よりも高く水が家の中にも入ってきたことなど、更に大事なことはミーティング・炊き出し・老人の救出・避難所生活・災害後の手伝い・病人へのケア等災害時に地域の協力体制が必要で、まさに災害ボランティア等の地域力が必要と感じました！この講習から浅水ふれあいセンターは災害時の避難場所となっていることで、今後、薬や発電機等必要なものを揃えて行きます。

## 「こいのぼり」を護ってください！

北上川沿いのサイクリングロードに毎年4月～5月にかけて、浅水の子供が元気にたくましく育つことを願い『こいのぼり』を掲揚しておりますが、今年は浅水ふれあいセンター前の農村公園に掲揚支柱を新設致しましたので、新しい場所で皆さん楽しんで頂きます。

こいのぼりも、高齢化になったり、元気が良すぎて北上川に逃げだしたりで、家族が少なくなりました。そこで、子供が大きくなり使われなくなった『こいのぼり』がありましたら、提供をお願い致します。

連絡先 浅水ふれあいセンター 34-2008



写真は平成22年10月20日 竣工祭。

# 「浅水のないたち」を知っていますか！

## 『浅水村』

浅水は、明治8年11月浅部村(浅部と小島)と水越村(川面・新小路・新田・沼畑・長谷・舟場・巻)が合併するに当たり、それぞれの頭文字を採って命名された新村名である。従って、浅水のもつ歴史は浅いが、旧村の置かれた地理的条件、北上の水との戦いと恵みの歴史、特に相模土手・若狭土手に思いを馳せるとき、浅水という地名自体が古くから存在していたかのようにも見え、その重みはぐつと増す。昭和61年本町は民俗芸能の町を宣言した。浅水地区は民俗芸能の保存名場伝承活動が特に盛んで、町指定無形民俗文化財の半数以上を占める。その中で日高見流浅部法印神楽は、宮城県指定無形民俗文化財となっている。

(1).『水越村』南流してきた北上川が北東へと向きを変え、大きく曲流する「北上の大迂回部」、その北上川の右岸西側から南側に寄り添うように点在した集落が、かつての水越村である。地理的には、東は川を隔てて米谷村(現東和町)、西は黒沼村、南は浅部村、北は桜場村に接していた。近世初頭の河川改修(通称相模土手)以前、いわゆる北上乱流当時は、北上川本流は水越・浅部地区で東と西南の二つに分流していたとされる。そのうち西南流は、水越から小島山西方の低平地を流れて、宝江・葛籠淵・吉田を経て迫川に合流する流路で、この西南流の方が本流となった時期もあった。この頃は、長谷山は「川東」と呼ばれていた。水越村安永風土記には地名由来の記述はないが、古くから、北上川が増水すれば自然堤防を越えて氾濫する地帯だったことによる地名であることが連想される。初代寺池城(現登米町)城主伊達(白石)相模宗直が、慶長9年(1604)入封に当たり、領内の荒廃で水越(巻)に1カ年程滞留を余儀なくされた際、登米低平の地には、北上・迫両河川が乱流するまま広大な谷地(湿原)が広がり、ほとんど田圃を見ぬ状況を目のあたりにして、河川の統御が領内統治の先決問題と痛感された。そこで開拓のことは治水にありとし、藩の公許を得て、約3カ年をかけて大泉、冠木小塚から堀米、川面を経て長谷山下へ、それより巻へと続く約6.65キロメートルに及ぶ大築堤を実現した。世にいう相模土手である。以来、北上川の西岸は急速に新田開発が進むことになる(第三編「開発と災害」参照)。水越村を語るとき、長谷寺も避けて通れない歴史の重みがある。

(2).『浅部村』浅部村は水越村の南に位置し、その南西部(浅部玉山112.2メートルが本町最高峰)を除いて一般に低平で、古くから北上川が氾濫し、浅瀬、谷地、沼地の多い地域であった。その中で洪水のとき、里人にとり孤島のごとく浮かび上がって見えたのが、低平の小丘標高37.7メートルの小島山である。「封内風土記」浅部邑の項に、周囲6里、8沢9崎の称があり、その山脚を鶴崎・亀崎というように記されている。また、小島山の東南端に別雷神を祀っている雲南神社があり、小島地区の氏神様として祭典には町無形民俗文化財「小島田植踊」を奉納している。この地域でも、残部貝塚で知られるように、縄文の時代より人々が生活を営んできた。人々は、洪水の被害の少ない区域・小高い丘を選んで集落を形成した。これが浅部の地名の由来であろう。相模土手により、流路を大きく東に変える河道変更が行われたが、相模土手南岸堤防は低平部を横切る水流の加圧によりしばしば決壊して、浅部地域はその度に洪水の被害を受けた。そこで、二代目寺池城主伊達若狭宗貞は、慶安年間(1648～1651)に3カ年の歳月を費やし、強固な築堤改修をなし遂げた。これが通称若狭土手といわれるものである。なお、この若狭土手築堤には人柱伝説が語り継がれている。今日の私たちの豊かな生活は、このような歴史の重みの上に成り立っていることを銘記すべきであろう。

原文:中田町史より

## これからの主な事業・行事

3月

9日(水) 男の料理教室

16日(水) 昭和と戦争DVD観賞会

24日(木) 昭和と戦争DVD観賞会

激動の昭和の記録を見てください！ 感動が伝わりますよ！



4月

7日(木) 昭和と戦争DVD観賞会

8日(金) こいのぼり掲揚

13日(水) 男の料理教室

14日(木) 昭和と戦争DVD観賞会

21日(木) 昭和と戦争DVD観賞会

21日(木) 浅水六十寿会総会

27日(水) 浅水コミュニティ運営協議会

